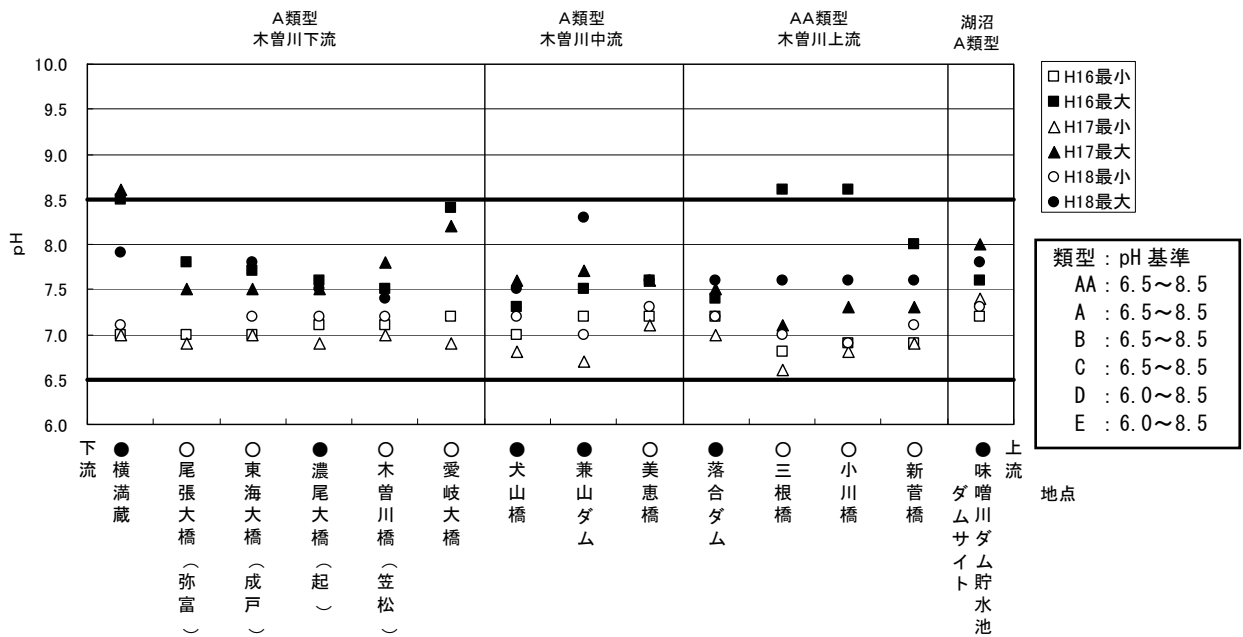


地点：環境基準点(●)・補助点(○)

注) 味噌川ダムの生活環境項目の類型指定は、河川 AA 類型から湖沼 A 類型に改定予定。
出典：公共用水域の水質測定結果

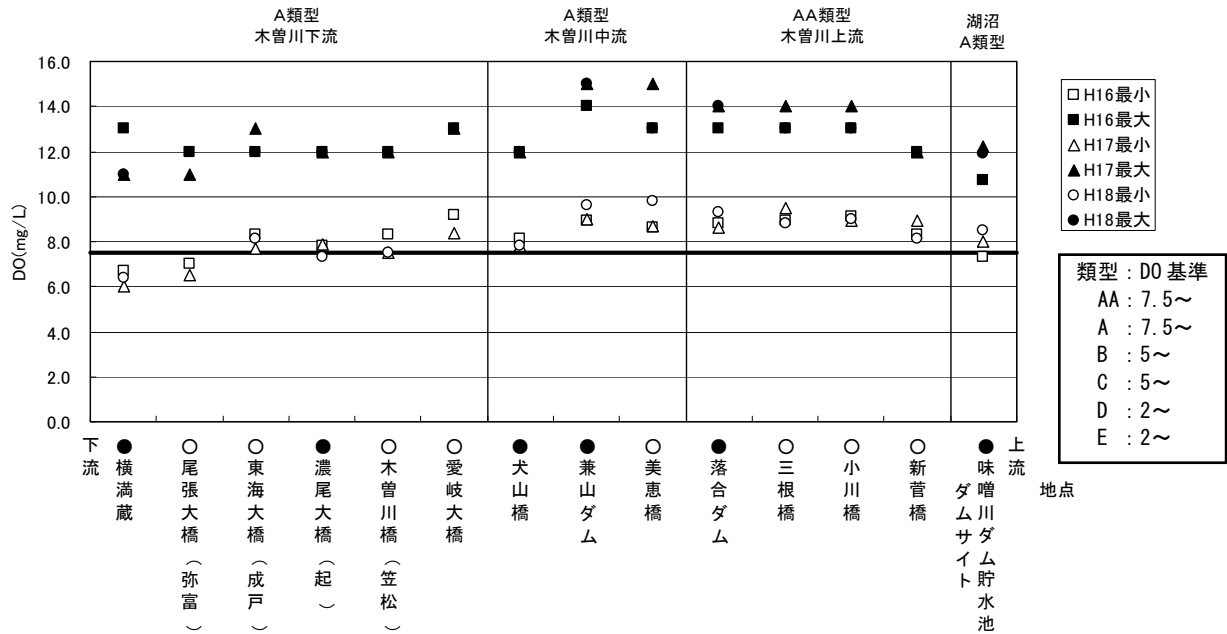
図 2.44 BOD75%値の縦断分布(木曾川)



地点：環境基準点(●)・補助点(○)

注) 味噌川ダムの生活環境項目の類型指定は、河川 AA 類型から湖沼 A 類型に改定予定。
出典：公共用水域の水質測定結果

図 2.45 pH の縦断分布(木曾川)

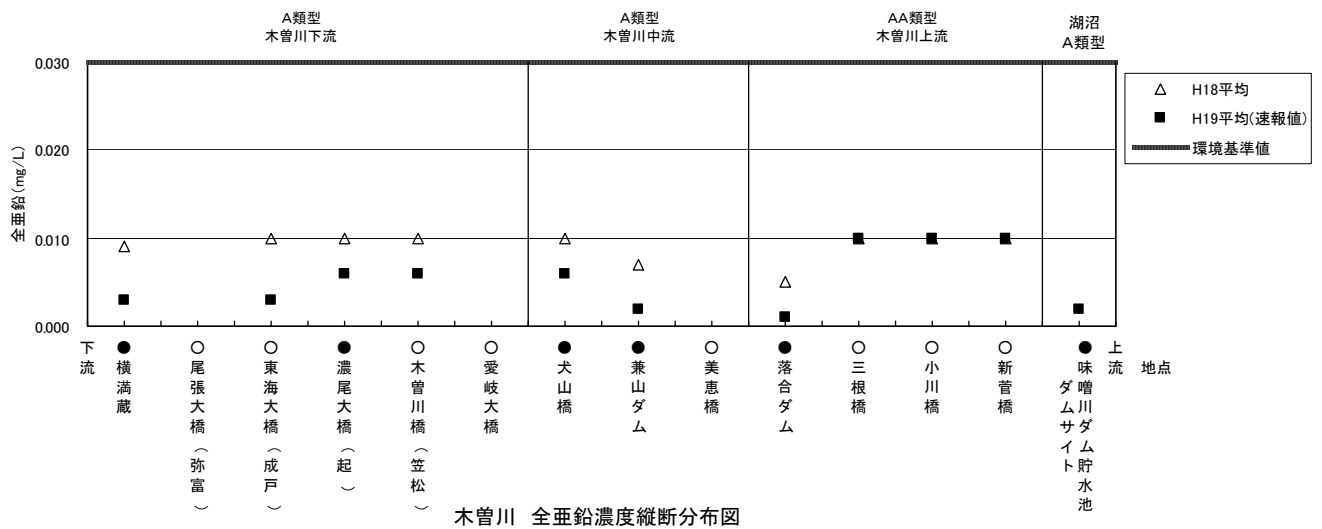


地点：環境基準点(●)・補助点(○)

注) 味噌川ダムの生活環境項目の類型指定は、河川 AA 類型から湖沼 A 類型に改定予定。

出典：公共用水域の水質測定結果

図 2.46 DO の縦断分布(木曽川)



地点：環境基準点(●)・補助点(○)

※年度平均値が<0.01、<0.03（定量下限値未満）の地点については、0.01 及び 0.03 とみなしてプロットした。また、定量下限値が<0.05 の地点のデータは除外した。

注) 味噌川ダムの生活環境項目の類型指定は、河川 AA 類型から湖沼 A 類型に改定予定。

出典：公共用水域の水質測定結果

図 2.47 亜鉛の縦断分布(木曽川)

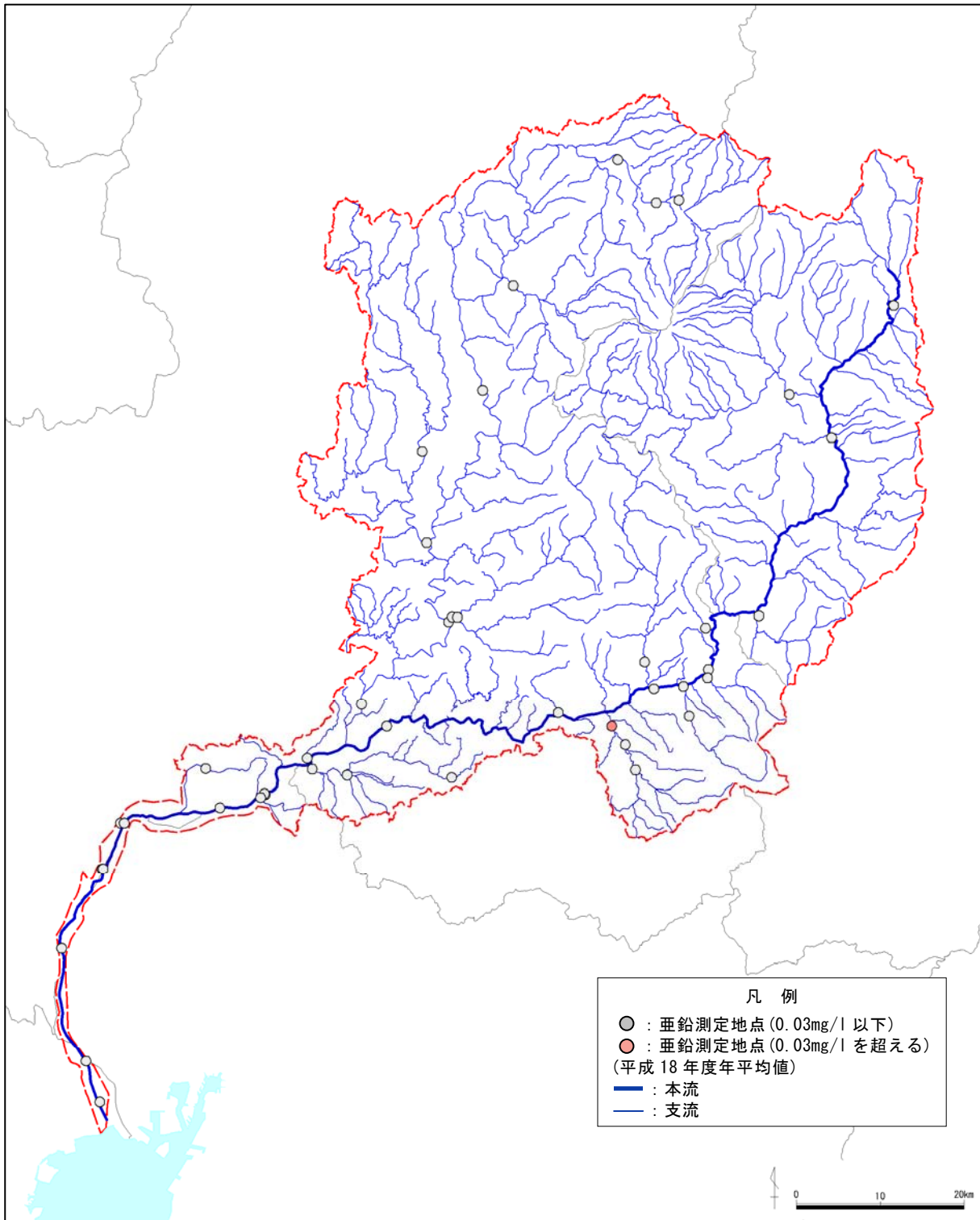
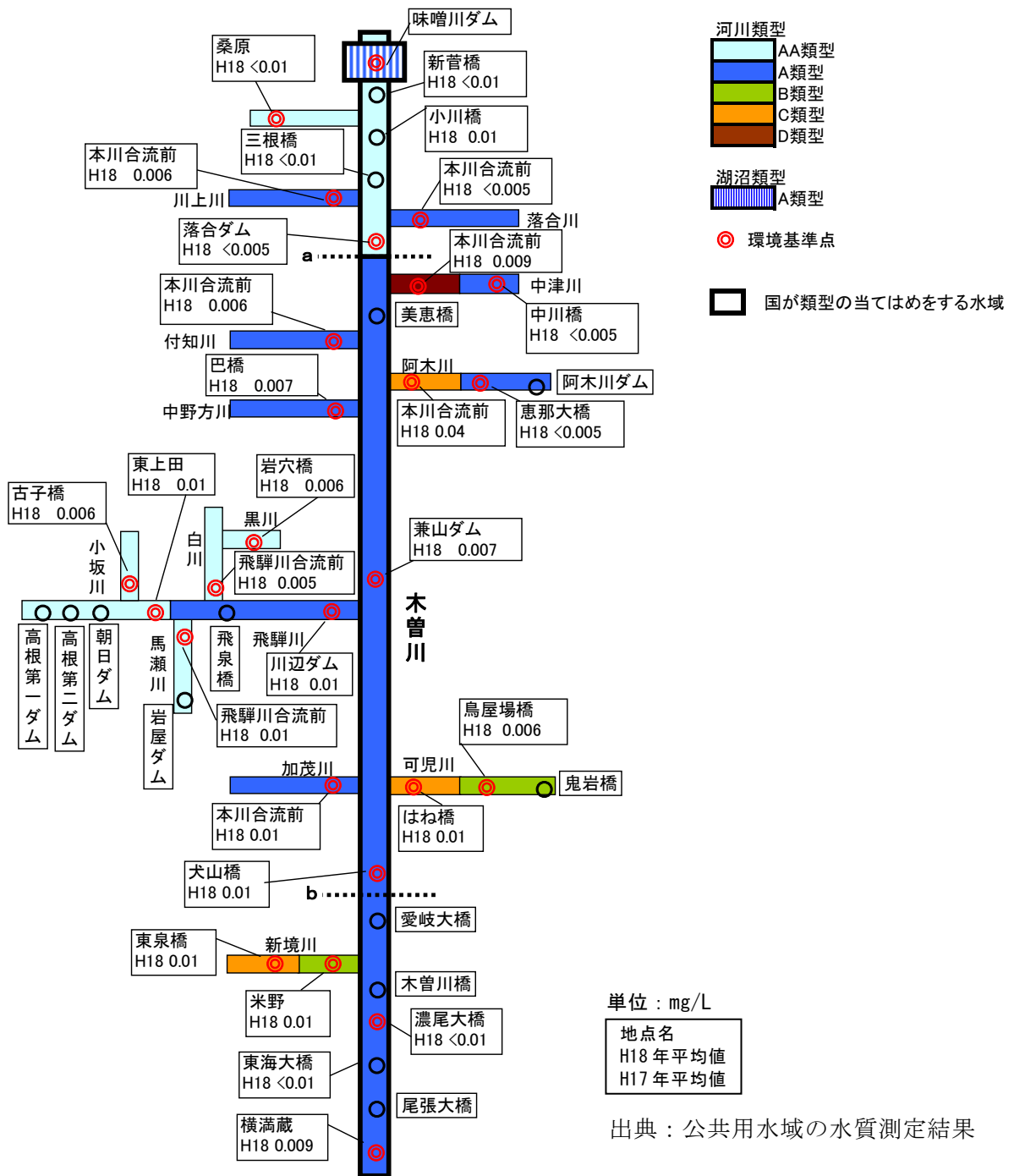


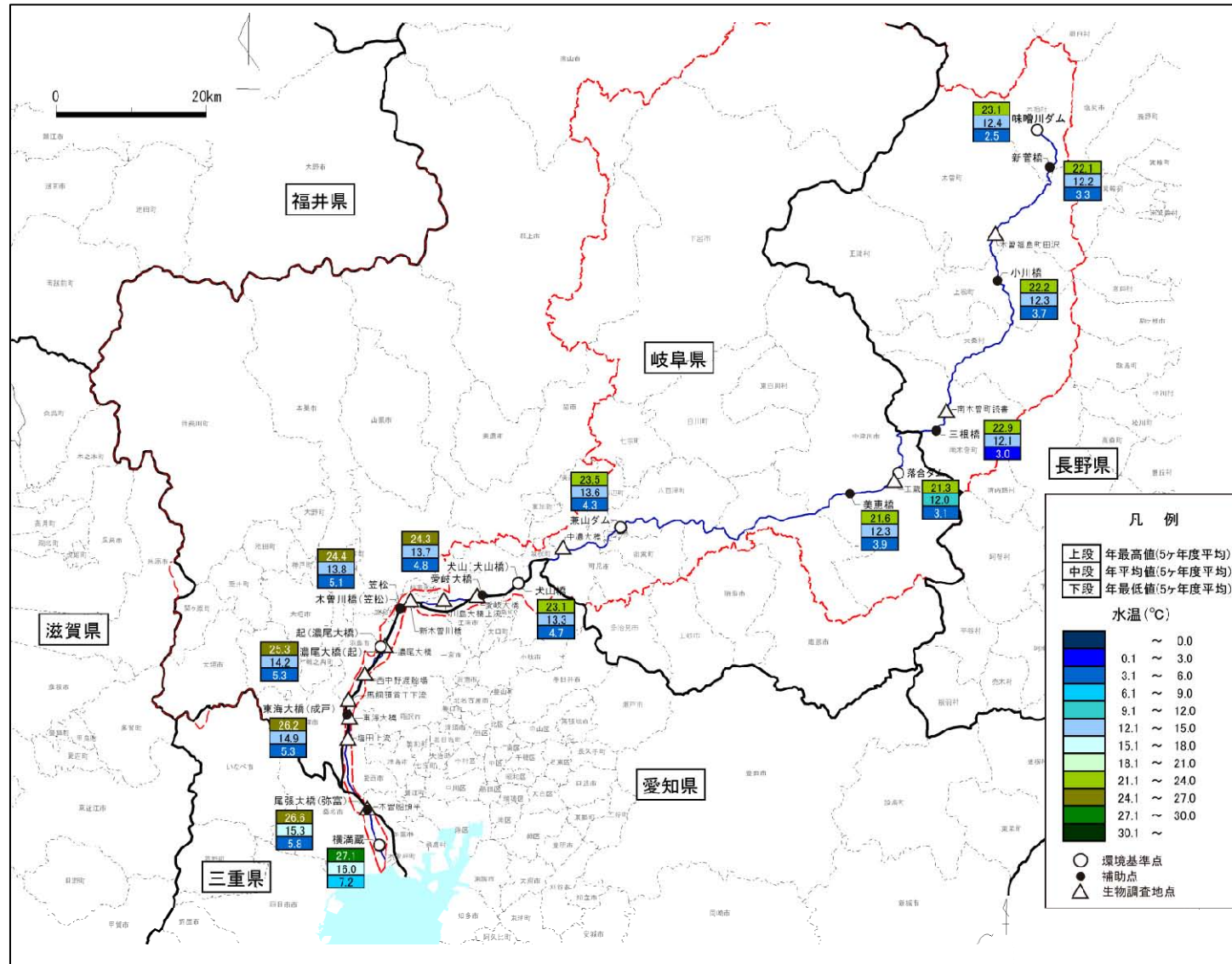
図 2.48 亜鉛測定地点(木曾川)

河川	環境基準	類型区分	区分点・区間		
木曽川	AA	木曽川上流	a	落合ダム	～ 上流
	A	木曽川中流	b	犬山頭首工	～ a
	A	木曽川下流	b	犬山頭首工	～ 下流



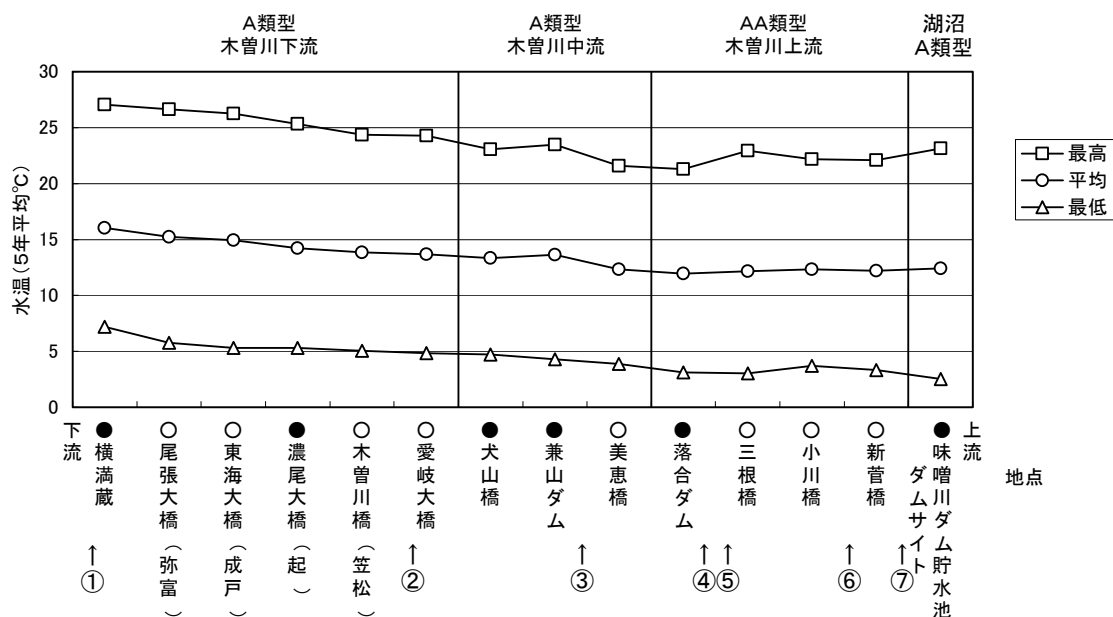
注) 味噌川ダムの生活環境項目の類型指定は、河川 AA 類型から湖沼 A 類型に改定予定。

図 2.49 亜鉛検出状況(木曽川)



出典：公共用水域の水質測定結果

図 2.50 水温(木曾川)



NO	河川	都道府県	処理場名	放流水質(H16年平均)	
				水温(°C)	BOD(mg/L)
①	木曾川	三重県	東部地区クリーンセンター	21.7	3
②	木曾川	岐阜県	各務原浄化センター	21.4	1.1
③	木曾川	岐阜県	丸山浄化センター	18.3	2.8
④	木曾川	岐阜県	坂下浄化センター	19.7	8.9
⑤	木曾川	長野県	妻籠クリーンセンター	17.4	3.8
⑥	木曾川	長野県	日義浄化センター	15.4	2
⑦	木曾川	長野県	木祖浄化センター	20	2.1

※最高・平均・最低は、平成14～18年度の公共用水域水質測定結果より、各年度において月平均水温の年最高値・年平均値・年最低値を求め、5カ年でそれぞれ平均した値である。

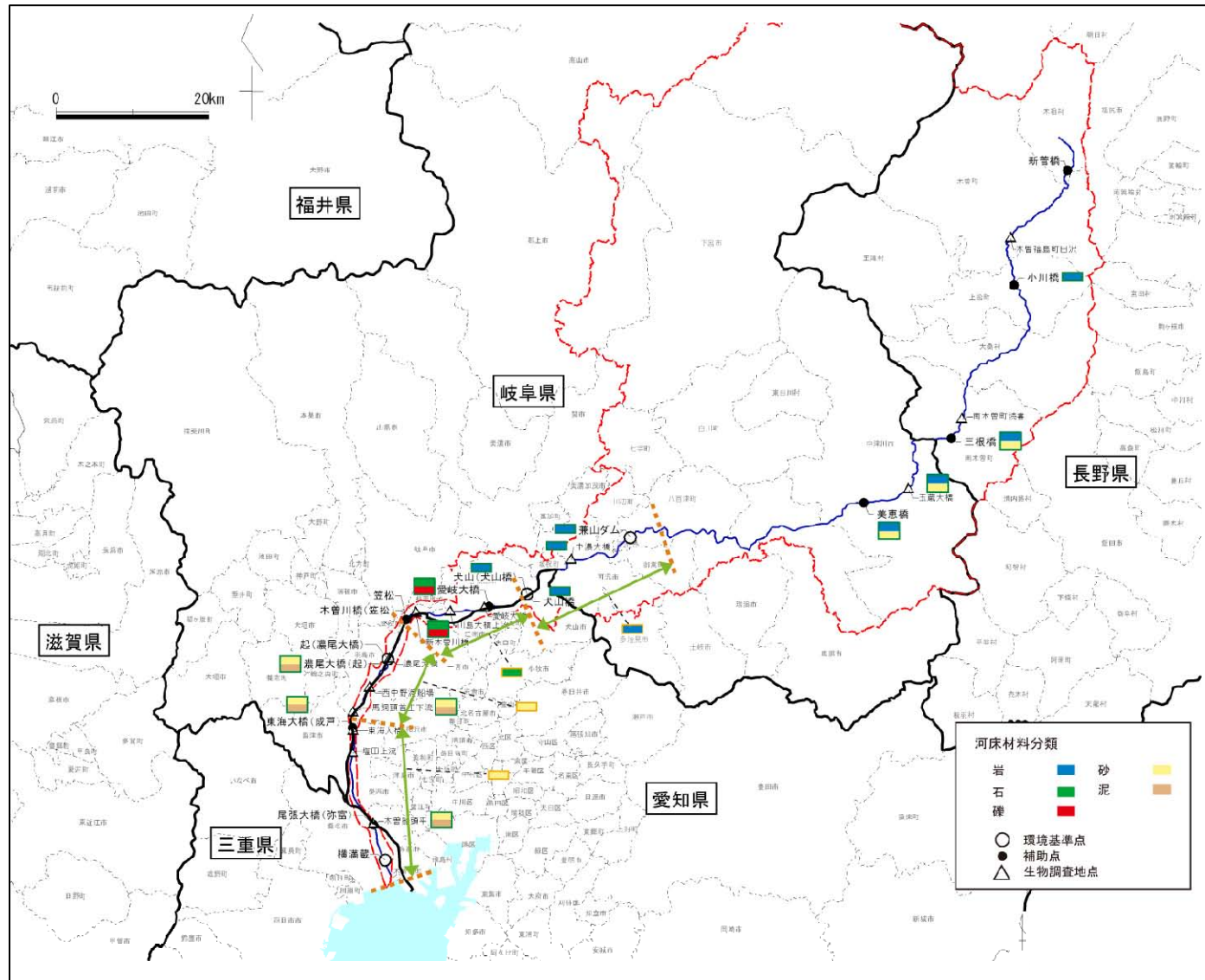
地点：環境基準点(●)・補助点(○)

注) 味噌川ダムの生活環境項目の類型指定は、河川AA類型から湖沼A類型に改定予定。

出典：公共用水域の水質測定結果

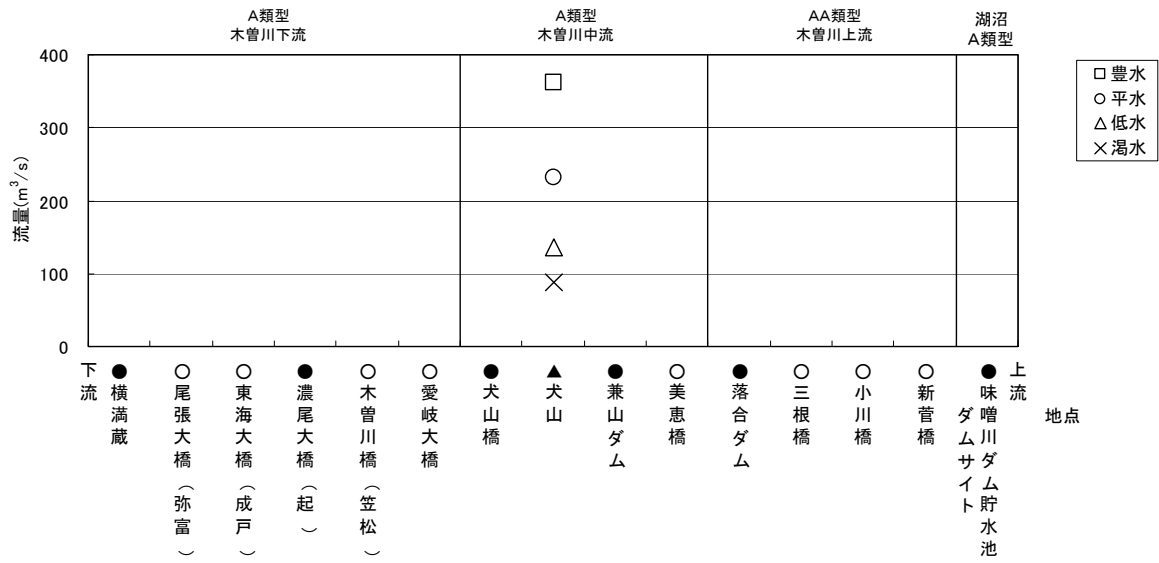
平成17年度版 下水道統計 第62号(社)日本下水道協会、H19)

図 2.51 水温縦断分布(木曾川)



出典： は、平成 16 年度環境省調査、 「第 74 回河川整備基本方針検討小委員会 参考資料 1-1 木曾川水系の流域及び河川の概要(案)」(平成 19 年 8 月 31 日)による

図 2.52 河床材料(木曾川)

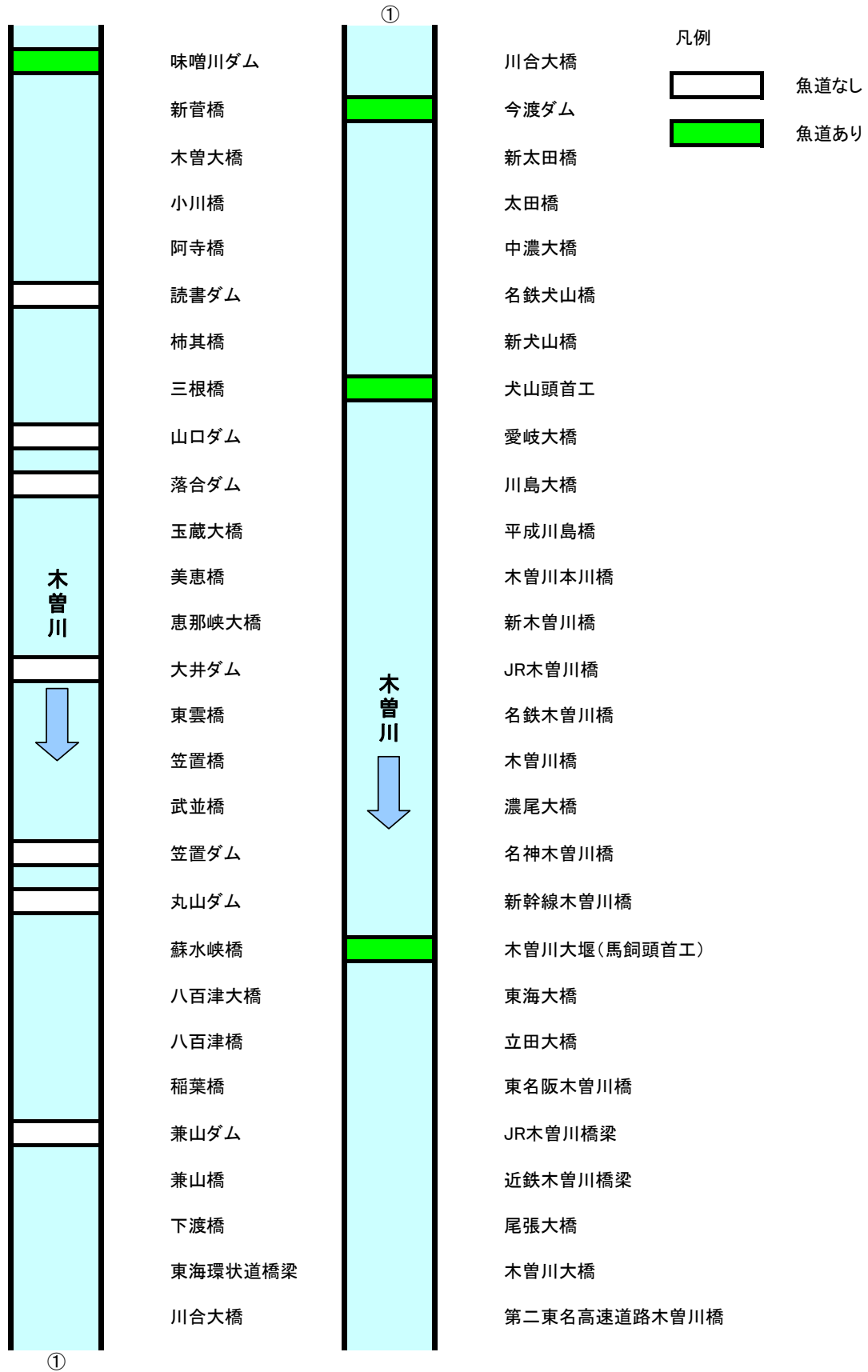


地点：環境基準点(●)・補助点(○)・流量測定点(▲)

注) 味噌川ダムの生活環境項目の類型指定は、河川 AA 類型から湖沼 A 類型に改定予定。

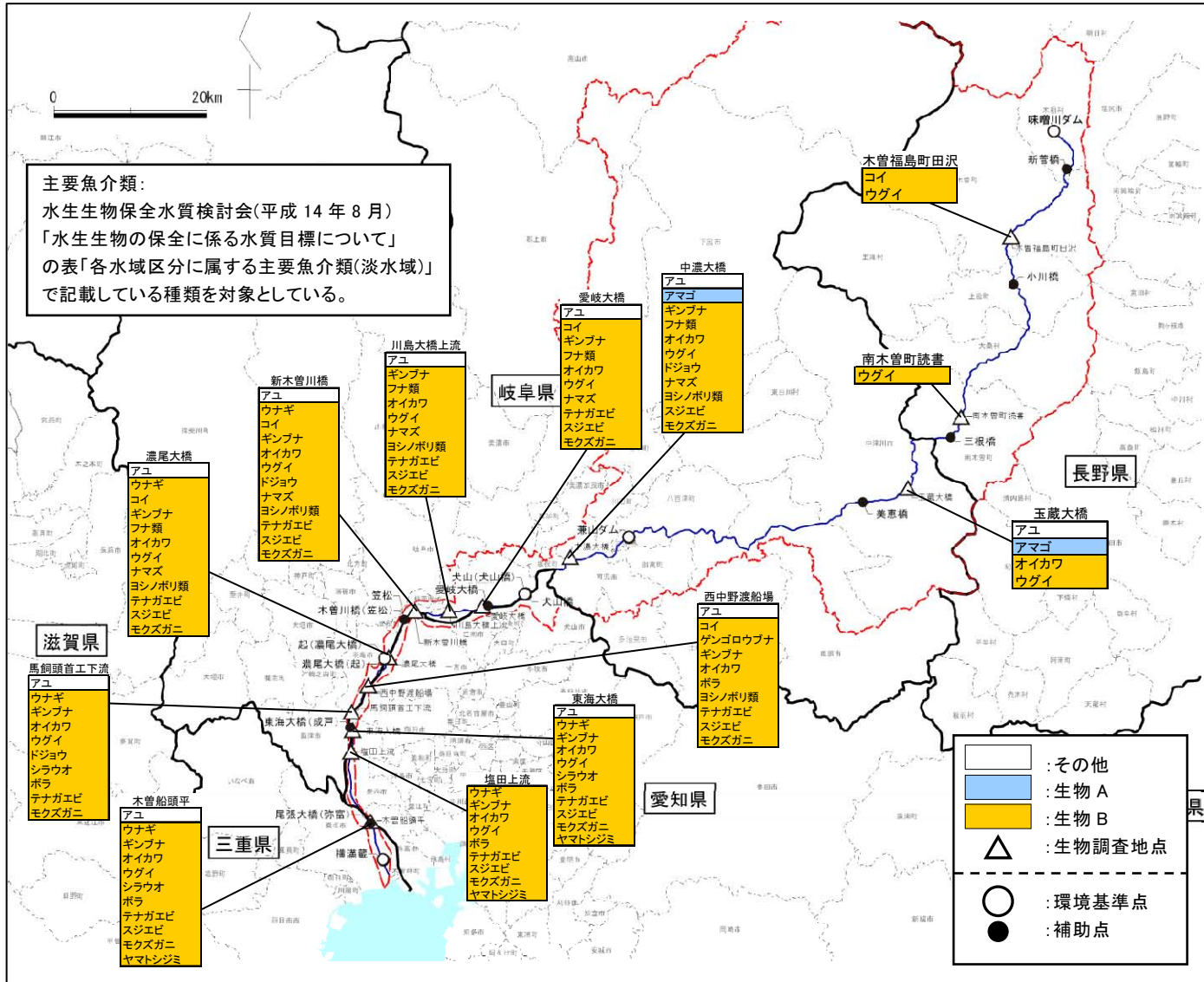
出典：流量年表 (国土交通省河川局編, H15)

図 2.53 流量の縦断分布(木曾川)



出典：国土交通省資料等を基に環境省が作成

図 2.54 主な河川横断工作物(木曾川)



出典：国土交通省「河川水辺の国勢調査」他

図 2.55 主要魚介類の確認状況(木曾川)

表 2.12 魚介類の確認状況(既存調査結果)(木曽川)

項目・分類・科・種名	調査地点	調査年度												
		1 木曽 船頭平	2 塩田 上流	3 東海 大橋	4 馬飼 頭首工下流	5 西中 野渡船場	6 濃尾 大橋	7 新木 曽川橋	8 川島 大橋上流	9 愛岐 大橋	10 中濃 大橋	11 玉蔵 大橋	12 南木 曽町読書	13 木曽 福島町田沢
生物A	魚類	サケ科	アマゴ											
その他		アユ科	アユ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
生物B	魚類	ウナギ科	ウナギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		コイ科	コイ					○	○	○				○
		コイ科	ゲンゴロウブナ					○						
		コイ科	ギンブナ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		コイ科	フナ属の一種					○	○	○	○	○	○	
		コイ科	オイカワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		コイ科	ウグイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		ドジョウ科	ドジョウ				○							
		ナマス科	ナマス						○	○	○	○	○	
		シラウオ科	シラウオ	○		○								
		ボラ科	ボラ	○	○	○	○							
		ハゼ科	トウヨシノボリ					○	○	○		○		
	甲殻類	テナガエビ科	テナガエビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		テナガエビ科	スジエビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		イワガニ科	モクスガニ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	貝類	シジミ科	ヤマトシジミ	○	○	○								
その他	魚類	ニシン科	サッパ	○	○									
		コイ科	カネヒラ					○						
		コイ科	タイリクバラタナゴ	○				○	○	○				
		コイ科	ハス					○						
		コイ科	カワムツ						○	○	○	○	○	
		コイ科	アブラハヤ						○	○	○	○	○	○
		コイ科	モツゴ	○	○			○	○	○	○	○	○	
		コイ科	Sarcocheilichthys属の一種					○	○	○	○	○	○	
		コイ科	タモロコ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		コイ科	ゼゼラ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	
		コイ科	カマツカ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		コイ科	ツチフキ			○	○	○	○	○	○	○	○	
		コイ科	ニゴイ										○	
		コイ科	Hemibarbus属の一種				○	○				○		
		コイ科	イトモロコ						○			○		
		コイ科	スゴモロコ	○	○	○								
		コイ科	コウライモロコ									○		
		コイ科	Squalidus属の一種	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		ドジョウ科	シマドジョウ				○	○	○	○	○	○	○	
		ギギ科	ギギ		○	○			○	○	○	○	○	
		コナギ科	マゴチ	○	○	○								
		スズキ科	スズキ	○	○	○	○							
		シマイサキ科	コトヒキ	○	○	○								
		シマイサキ科	シマイサキ	○	○	○								
		サンフィッシュ科	ブルーギル	○	○		○	○	○	○	○	○	○	
		サンフィッシュ科	オオクチバス(ブラックバス)					○	○	○	○	○	○	
		ヒラギ科	ヒラギ	○	○	○	○							
		ハゼ科	ウキゴリ		○	○	○	○	○		○			
		ハゼ科	ピリンゴ	○	○	○								
		ハゼ科	ウロハゼ	○	○	○								
		ハゼ科	マハゼ	○	○	○								
		ハゼ科	アシシロハゼ	○	○	○								
		ハゼ科	ヒメハゼ	○	○									
		ハゼ科	アベハゼ	○										
		ハゼ科	ゴクラクハゼ			○	○							
		ハゼ科	カワヨシノボリ				○	○	○	○	○	○	○	○
		ハゼ科	ヨシノボリ属の一種			○	○	○	○	○	○	○	○	○
		ハゼ科	シモフリシマハゼ	○	○	○	○							
		ハゼ科	ヌマチチブ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	甲殻類	タイワンドジョウ科	カムルチー		○	○		○	○	○	○	○	○	
		クルマエビ科	モエビ											
		ヌマエビ科	ミナミヌマエビ			○		○	○	○	○	○	○	
		ヌマエビ科	ヌマエビ	○									○	
		アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ					○	○	○	○	○	○	
		イワガニ科	カクベンケイガニ				○							
		スナガニ科	アリアケモドキ	○	○									
		サワガニ科	サワガニ									○	○	
	貝類	アマオブネガイ科(ナフネアマガイ科)	イシマキガイ	○	○									
		タニシ科	オオタニシ						○					
		タニシ科	ヒメタニシ						○	○				
		カワニナ科	カワニナ							○			○	
		カワニナ科	チリメンカワニナ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		モノアラガイ科	ヒメモノアラガイ					○	○					
		イガイ科	カワヒバリガイ				○							
		イシガイ科	ドブガイ(タガイ、ヌマガイ)		○		○	○			○	○		
		イシガイ科	ササノハガイ				○							
		イシガイ科	イシガイ				○	○						
		シジミ科	Corbicula属の一種			○	○	○	○	○	○	○	○	

出典：国土交通省「河川水辺の国勢調査」

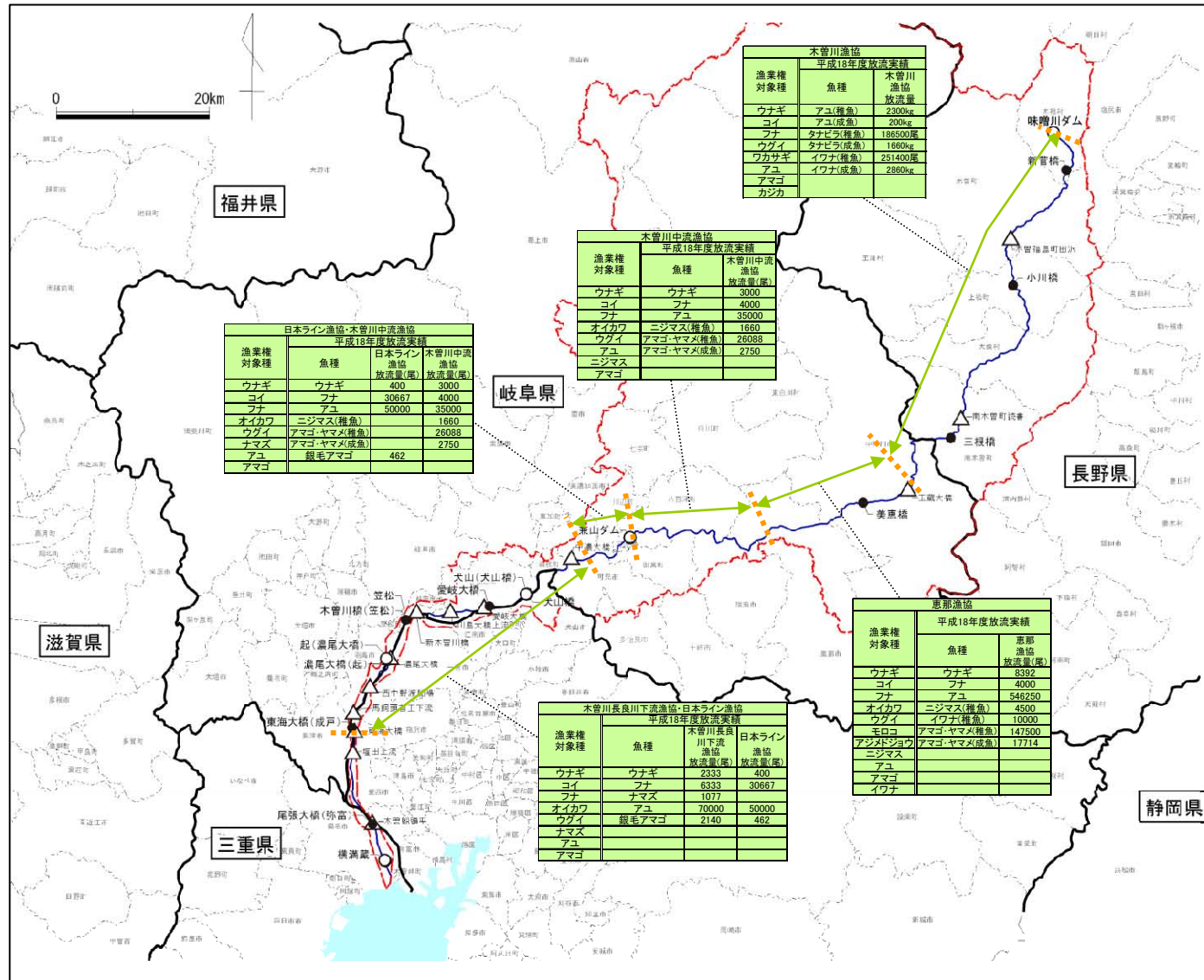


図 2.56 漁業権設定・魚類等放流状況(木曾川)

2.5 揖斐川

(1) 水域の概況

揖斐川は、岐阜県揖斐郡揖斐川町から山間溪谷を流下して坂内川等の支川を合わせ、濃尾平野に入った後は、粕川や根尾川等の支川を合わせ大垣市の東側を南下し、さらに、牧田川、津屋川、多度川、肱江川等の支川を合わせ、長良川と背割堤を挟んで並行して流れ、三重県桑名市で長良川と合流して伊勢湾に注ぐ、幹川流路延長 121km、流域面積 1,840km² の一級河川である。

河床勾配については、揖斐川が 1/300 から 1/7,000 程度で三川とも河口域ではほぼ水平である。

(出典：木曾川水系河川整備基本方針 平成 19 年 11 月 国土交通省河川局)

(2) 水質の状況

1) 水域類型指定状況 (図 2.57)

既存生活環境項目(BOD、COD、全窒素、全リン等の水生生物保全環境基準を除く項目)の水域類型指定状況は、河川が揖斐川(1)、(2)、(3)及び(4)の4区分で、揖斐川(1)及び(2)がAA類型、それより下流がA類型に指定されている。横山ダム貯水池は湖沼としてA及びⅢ類型に指定されている。

2) 水質汚濁の状況 (表 2.14、図 2.58～図 2.60)

BOD75%値の5年平均で見ると、水質の改善傾向が見られており、近年(平成14～18年度)では、概ねBODの環境基準を満たしている。

横山ダム貯水池は、平成16～18年度のデータをみるとCOD、全リンの環境基準を満たしている。

3) 亜鉛の水質の状況 (図 2.61～図 2.63)

平成17～18年度の調査の結果、年平均の全亜鉛濃度は全地点とも0.01mg/L以下である。

揖斐川本川における亜鉛排出事業所としては下水処理場等、全体で8件存在しており、そのうち当該水域へ直接放流する事業所(PRTR対象事業所)は4件で、年度排出量が1000kg超・100kg超・10kg超・1kg超・1kg以下の順で見ると0件・0件・3件・1件・0件となっている(出典：平成18年度水質汚濁物質排出量総合調査データ、平成18年度PRTRデータ)。

(3) 水温の状況 (図 2.64、図 2.65)

水温は、揖斐川(1)の岡島橋で平均水温13℃程度であるが、下流に向かうに従って上昇し、揖斐川(3)の福岡大橋より下流で平均水温15～16℃程度となっている。

横山ダムでは、平均水温12℃程度となっている。

(4) 水域の構造等

1) 河床材料 (図 2.66)

揖斐川における主な河床材料は、根尾川合流点～西平ダムでは石や礫が中心、牧田川合流点～根尾川合流点では礫が中心、牧田川合流点から下流では砂が中心となっている。

2) 流量 (図 2.67)

低水流量は、岡島橋で40 m³/s程度、万石で29m³/s程度となっている。

3) 主な河川構造物 (図 2.68)

頭首工として岡島頭首工があり、魚道が設置されている。ダムとして上流に徳山ダム、横山ダム、久瀬ダム及び西平ダムがあり、西平ダムに魚道が設置されている。またその他に、床固が数カ所存在し、一部には魚道が設置されていないものもある。

(5) 魚介類の生息状況 (表 2.13、表 2.15、図 2.69、図 2.70)

1) 冷水性の魚介類

(a) 基礎情報

冷水性の魚介類は、河川水辺の国勢調査(国土交通省)等によると、アマゴが横山ダム及び岡島頭首工で確認されている。

(b) ヒアリング情報

表 5.1 のとおりとする。

2) 温水性の魚介類

(a) 基礎情報

温水性の魚介類は、河川水辺の国勢調査(国土交通省)等によると、全般的にコイ、フナ類、オイカワ、ウグイ、シマヨシノボリ等が確認されている。

(b) ヒアリング情報

表 5.1 のとおりとする。

3) その他

アユは、河川水辺の国勢調査(国土交通省)によると、脇野排水機場より上流で全般的に確認されている。

また、揖斐川においては上流の岐阜県内に内水面の漁業権が設定されており、アユ・アマゴ・ウナギ・フナ等の放流も実施されているが、三重県内には漁業権が設定されていない。

表 2.13 魚介類生息状況に関する学識者や漁業関係者へのヒアリング結果の整理(揖斐川)

項目	ヒアリング結果 (回答機関名)	
	岐阜県 (上流)	岐阜県 (下流)
魚介類の生息範囲	<p>①代表的及び特徴的な魚介類 ・本流管轄域ではアユ・カジカ (揖斐川上流漁協)</p> <p>②イワナ・ヤマメ類等の生息範囲 ・イワナは揖斐川町 (岡島橋周辺) より上流に生息している (岐阜県河川環境研究所)。 ・本流には生息していない。イワナ・アマゴは主に支流の上流に生息 (揖斐川上流漁協)。 ・ヤマメ・アマゴは岡島橋下流周辺から根尾川合流点の区間に生息している情報はない。当該区間ではアユ・ウグイの生息情報がある。</p> <p>③コイ・フナ類等の生息範囲 ・河口～中流域 (河口から 100km 程度まで) に多く生息していると考えられる (岐阜県河川環境研究所)。 ・コイは東杉原の旧ダム堰堤を上限としてその下流に分布 (揖斐川上流漁協)。</p>	<p>①代表的及び特徴的な魚介類 ・本流管轄域ではアマゴ (サツキマス)、フナ、コイ等 (海津漁協)。</p> <p>②イワナ・ヤマメ類等の生息範囲 ・イワナ・ヤマメ類は湖上・降下時のみ出現 (海津漁協)。</p> <p>③コイ・フナ類等の生息範囲 ・コイ・フナ類は本流全域に生息している (海津漁協)。</p>
魚介類等資源の保全	<p>①放流魚種 ・アユ、アマゴ、イワナ、ウナギ (揖斐川上流漁協)。</p>	<p>①放流魚種 ・ウナギ・ナマズ・ヘラブナ・マブナ (海津漁協)。</p>
河川環境	<p>①河床材料 ・かつては礫中心であったが、近年では全般的に砂で埋まってきている (揖斐川上流漁協)。</p> <p>②堰・ダム ・ダムや堰などの人工構造物が存在し、農業用の取水が多く行われており、瀬切れする場所がみられることがある (岐阜県河川環境研究所)。 ・横山ダムと旧ダム堰堤がある。横山ダムは魚道が未整備。魚道の効果は確認していない (揖斐川上流漁協)。</p>	<p>①河床材料 ・砂質から泥質が中心であり、域内の上流側と下流側では大きな変化はない (海津漁協)。</p> <p>②堰・ダム ・堰・ダム等は存在しない (海津漁協)。</p>

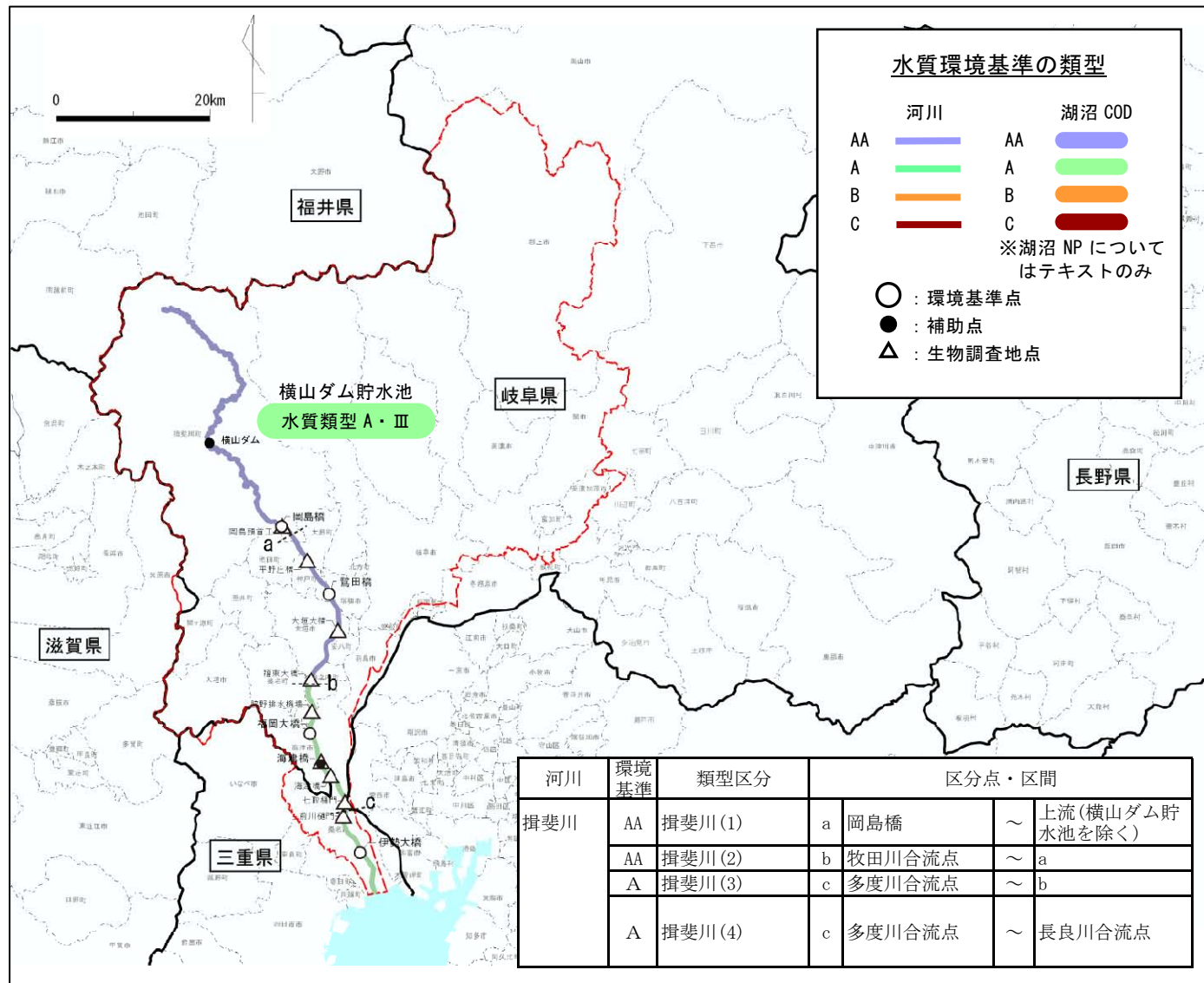


図 2.57 水質汚濁に係る環境基準の類型指定状況(揖斐川)

表 2.14 (1) 近年の水質の状況(揖斐川)

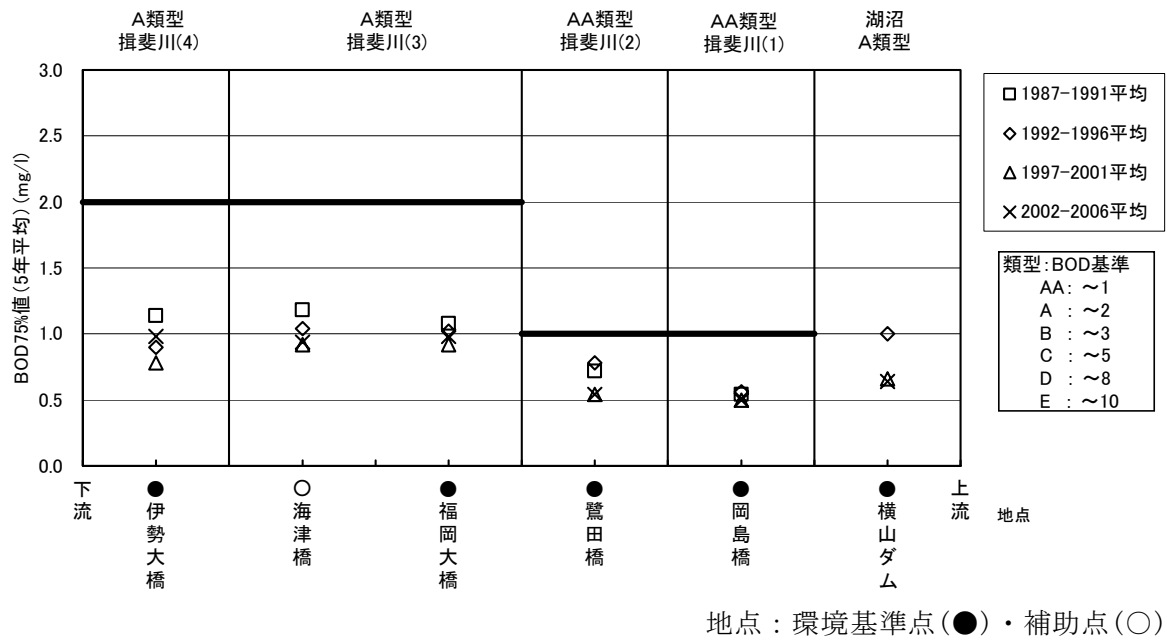
対象	水域	類型	環境基準点	年度	BOD				基準	pH			DO				SS				大腸菌群数			
					最小値	最大値	平均値	75%値		最小値	最大値	基準	最小値	最大値	平均値	基準	最小値	最大値	平均値	基準	最小値	最大値	平均値	基準
河川	揖斐川(1)	AA	岡島橋	H16	<0.5	0.5	0.5	<0.5	1	7.4	8.7	6.5~8.5	9	13	11	7.5	1	10	5	25	310	28000	4900	50
				H17	<0.5	0.8	0.5	<0.5		7.5	8		8.7	13	11		1	17	6		170	33000	5400	
				H18	<0.5	0.7	0.5	0.5		7.5	8.5		8.3	12	11		<1	16	4		220	280000	28000	
	揖斐川(2)	AA	鷺田橋	H16	<0.5	0.7	0.5	0.6	1	7.3	7.8	6.5~8.5	8.9	13	10	7.5	1	7	3	25	700	23000	6400	50
				H17	<0.5	1	0.6	0.6		7.3	8.1		7.6	12	10		<1	27	5		490	23000	7800	
				H18	<0.5	0.7	0.5	0.5		7.4	8		8.5	12	10		1	9	3		490	79000	15000	
	揖斐川(3)	A	福岡大橋	H16	<0.5	1	0.6	0.6	2	7.3	7.7	6.5~8.5	7.3	12	9.6	7.5	4	14	9	25	3300	49000	18000	1,000
				H17	<0.5	2.3	1	1.1		7.2	7.6		6.6	12	8.9		4	33	13		1700	79000	22000	
				H18	<0.5	1.6	1	1.2		7.4	7.7		5.9	11	8.7		4	23	12		1700	33000	14000	
			海津橋	H16	<0.5	1	0.7	0.7		7.2	7.5		7.6	12	9.2		4	15	9		2300	33000	19000	
				H17	<0.5	1.8	0.9	1		7.2	7.6		5.9	11	8.8		4	17	11		3300	79000	26000	
				H18	<0.5	1.4	0.9	1		7.4	7.6		5.6	11	8.7		4	17	10		2300	23000	9000	
	揖斐川(4)	A	伊勢大橋	H16	<0.5	5.7	1	0.9	2	7.2	7.9	6.5~8.5	5.8	11	8.9	7.5	5	28	12	25	310	17000	8500	1,000
				H17	<0.5	2.4	0.8	0.9		7.1	7.6		5.3	11	8.6		2	33	10		330	23000	5200	
				H18	<0.5	1.4	0.8	1		7.3	7.9		5.8	10	8.1		2	28	9		490	110000	14000	

出典：公共用水域の水質測定結果(平成16~18年度)

表 2.14 (2) 近年の水質の状況(揖斐川)

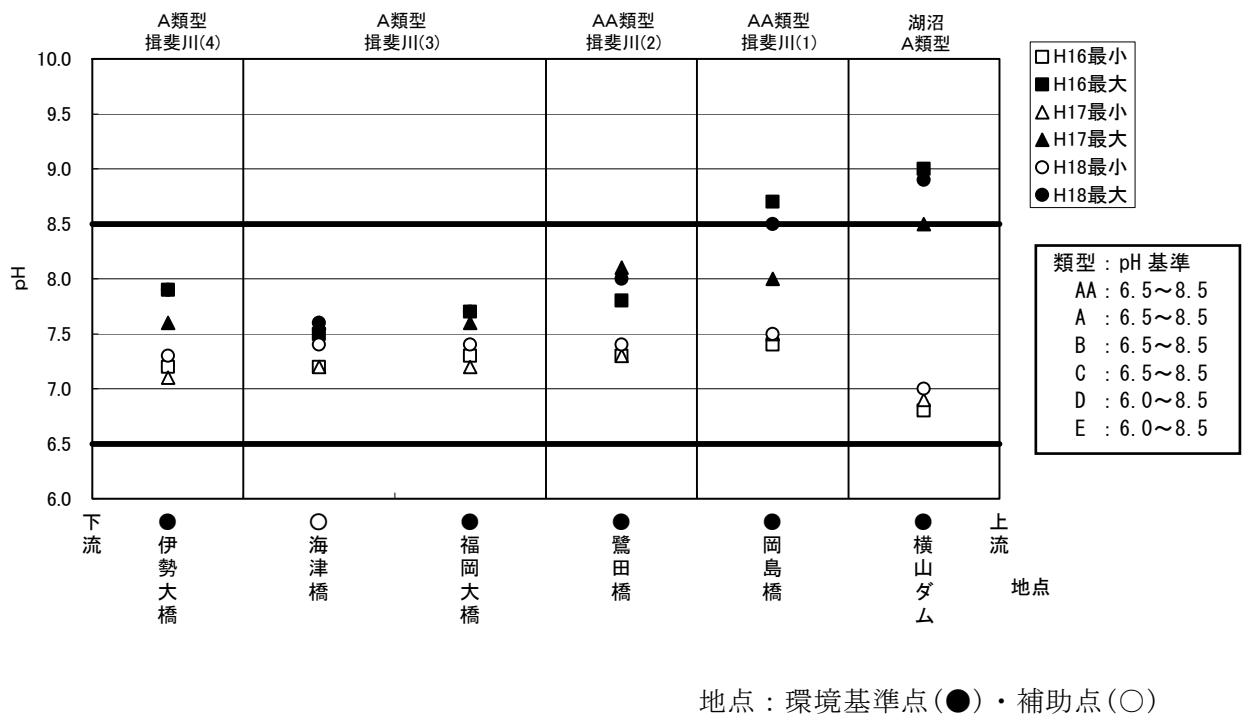
対象	水域	類型	環境基準点	年度	COD					pH			DO				SS				大腸菌群数			
					最小値	最大値	平均値	75%値	基準	最小値	最大値	基準	最小値	最大値	平均値	基準	最小値	最大値	平均値	基準	最小値	最大値	平均値	基準
湖沼	揖斐川(1)	湖沼A 湖沼Ⅲ	横山ダム	H16	0.6	4.1	1.5	1.6	3	6.8	9	6.5~8.5	7.3	12	9.8	7.5	<1	69	13	5	11	7900	1900	1000
				H17	0.8	4	1.5	1.9	3	6.9	8.5	6.5~8.5	6.4	12	9.7	7.5	3	99	16	5	7.8	33000	4300	1000
				H18	1.1	2.6	1.5	1.7	3	7.3	7.8	6.5~8.5	8	12	10	7.5	3	19	6	5	130	3300	1000	1000
	水域	類型	環境基準点	年度	全窒素					全磷														
					最小値	最大値	平均値	基準	最小値	最大値	平均値	基準												
					H16	0.27	0.59	0.46	—	0.005	0.031	0.015	0.03											
	揖斐川(1)	湖沼A 湖沼Ⅲ	横山ダム	H17	0.28	0.68	0.52	—	0.006	0.059	0.018	0.03												
				H18	0.35	0.65	0.44	—	0.009	0.032	0.015	0.03												

出典：公共用水域の水質測定結果(平成 16~18 年度)



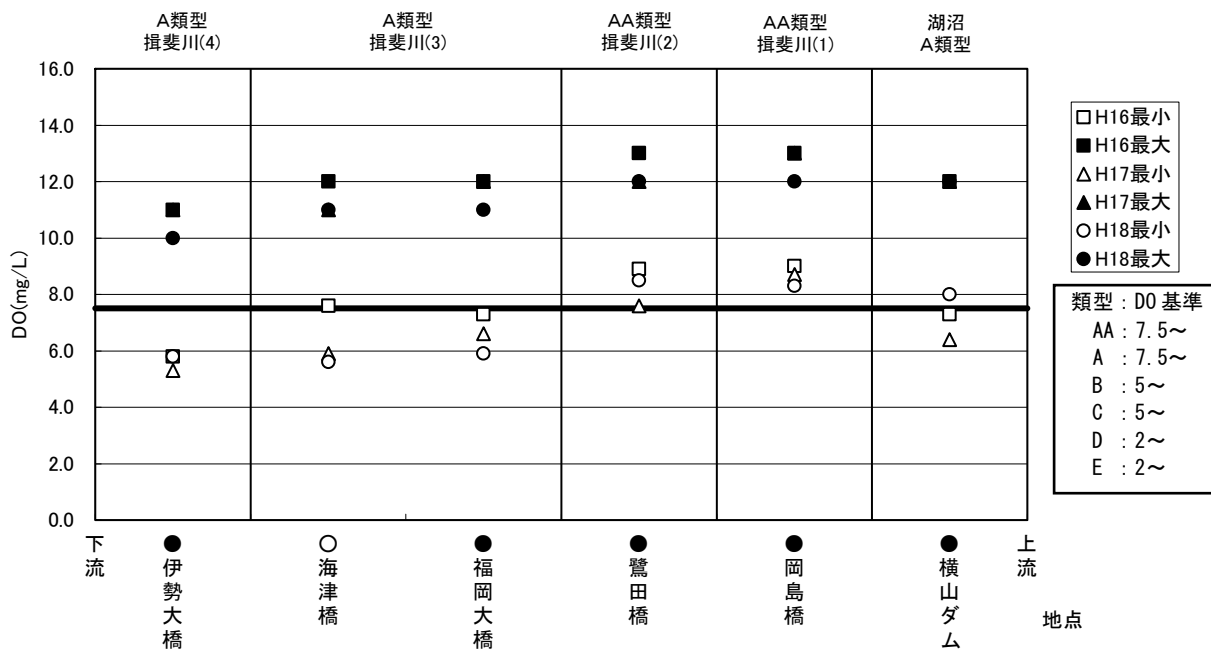
出典：公共用水域の水質測定結果

図 2.58 BOD75%値の縦断分布(揖斐川)



出典：公共用水域の水質測定結果

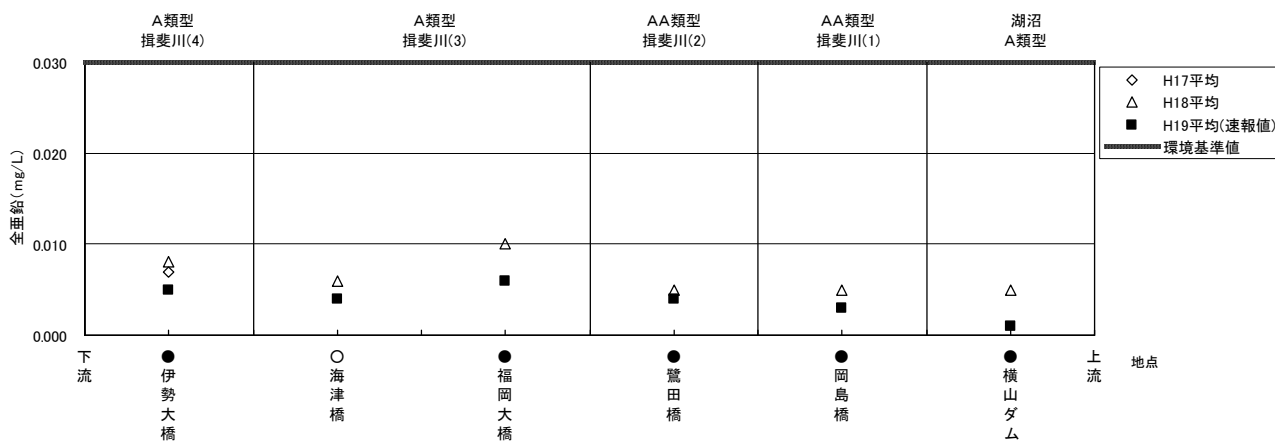
図 2.59 pHの縦断分布(揖斐川)



地点：環境基準点(●)・補助点(○)

出典：公共用水域の水質測定結果

図 2.60 DO の縦断分布(揖斐川)



揖斐川 全亜鉛濃度縦断分布図

地点：環境基準点(●)・補助点(○)

※年度平均値が<0.01、<0.03（定量下限値未満）の地点については、0.01 及び 0.03 とみなしてプロットした。また、定量下限値が<0.05 の地点のデータは除外した。

出典：公共用水域の水質測定結果

図 2.61 亜鉛の縦断分布(揖斐川)